

構想策定の背景・目的

1 背景

東日本大震災により、複数の県に跨るような広域的な災害対応の必要性が認識された。
 また、九州においても、南海トラフ巨大地震の被害想定で、大分、宮崎、鹿児島を中心として広範囲かつ甚大な被害が発生することが示されるとともに、地球温暖化に伴って異常気象の増加が懸念される中、同時多発的な豪雨災害等の発生リスクも高くなっている。
 このようなことから、九州においても県境を越える広域的な災害対応体制の整備が必要となっている。

2 目的

この構想は、広域防災拠点として求められる機能について、熊本地域が保有しているポテンシャルや優位性を明確にし、熊本県が九州を支える防災拠点として貢献していくという自負を持つとともに、九州各県や国においても認知され、熊本地域が真に九州における広域防災拠点としての役割を担っていくよう、基盤や機能の充実・強化を促進することを目的とする。

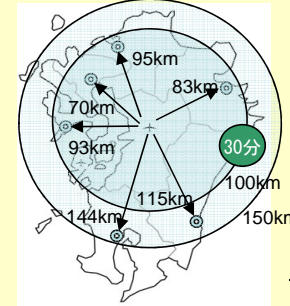
なお、この構想は次の3つの視点を踏まえて策定した。

- 1 地理的優位性を活かす。
- 2 既存施設の有効活用、関係機関との有機的連携を図ることで、広域防災拠点機能を担う。
- 3 九州が広域的に被災した場合の支援体制の強化を図る。

熊本の防災拠点としての優位性

1 九州の中央に位置する

- 熊本県からの各県までの距離が100km前後*のため、活動拠点として最適。
 - 陸路も縦軸は、九州自動車道路、新幹線も整備されている。
- *ヘリで片道30分



2 防災拠点としての指令機能を有している

- 陸上自衛隊の九州を統括する西部方面総監部や九州南部を管轄する第8師団司令部と、主要な実働部隊が駐屯。また、九州財務局、九州総合通信局等の国の機関立地。

3 災害時の医療拠点としての機能を有している

- 人口当りの病院数、病床数、医師数が全国でもトップクラス。
- 災害医療派遣の実績が豊富な日赤熊本県支部をはじめとした災害医療体制が充実。

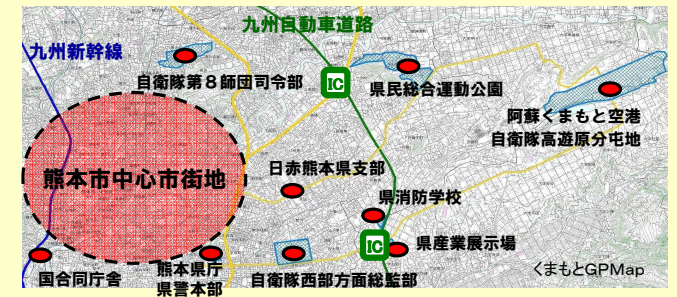


4 迅速に水や食料などを供給する能力を有している

- 陸上自衛隊高遊原分屯地（空港隣接）に大型輸送ヘリが九州では唯一配置。
- 古くから「水の都」とも呼ばれ、良質な地下水が豊富。また、その水に育まれた農林水産物などの資源も豊か。
- 生物学的製剤分野のワクチン開発を行う企業も存在。
- 県内4大学が連携した減災型地域社会リーダー養成の取組み。



5 各防災拠点が災害リスクの低い市街地の外縁部かつ内陸部に立地



6 災害に強く、即応能力を有している阿蘇くまもと空港

- 津波被害の心配のない内陸部に位置し、発着回数に余裕有。

九州を支える広域防災拠点への取組み

1 九州地区における広域的な災害対策活動を担う合同現地対策本部（司令塔機能）を九州の中央に位置する熊本県へ誘致

- 国に合同現地対策本部の適地として熊本を認知してもらい、整備費を確保



2 ヘリコプターを活用した情報収集体制の充実・強化

- 阿蘇くまもと空港への県警ヘリ、防災消防ヘリ及び応援ヘリ等の一体的運用が可能な拠点施設、格納庫整備検討

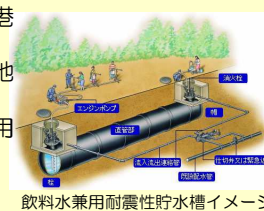


3 支援物資等の迅速な受入れ・搬送等の機能強化のため、集積拠点となる県産業展示場を中心とした整備

- 県産業展示場の機能強化（ヘリポート、太陽光発電・蓄電設備整備等）
- 補完空港である天草空港の機能強化（エプロン強化、ターミナルビルの防災拠点化、航空燃料の備蓄等）

4 支援部隊の一時集結・活動拠点施設の機能強化のため、阿蘇くまもと空港や県民総合運動公園等を整備

- 国へ阿蘇くまもと空港の防災上の拠点空港としての位置付け要望
- 阿蘇くまもと空港の機能強化（隣接県有地へのエプロン整備）
- 県民総合運動公園の機能強化（飲料水兼用耐震性貯水槽、防災トイレ整備）
- 県消防学校の機能強化（非常用発電設備、備蓄倉庫整備）



5 広域医療搬送拠点や災害医療提供体制等の充実・強化

- 国へ阿蘇くまもと空港への災害医療資器材保管施設等の整備要望
- 他県や関係機関と連携した九州を視野に入れた災害医療提供体制整備検討

6 被災者支援に不可欠な水・食料・医薬品等の供給体制の充実・強化

- 民間事業者との連携拡大、国へ救援物資保管施設等の整備要望

7 「すべての道は熊本に通じる」との考えの下、横軸をはじめとした交通基盤整備を加速化

